

平成 23 年度 普及に移す農業技術（第 2 回）

[ 分 類 ] 普及技術

[ 成果名 ] レタス、非結球レタスのオオタバコガ防除にディアナ SC が有効である

[ 要 約 ] レタス、非結球レタスのオオタバコガ防除にディアナ SC の 5,000 倍液を散布する。

[ 担 当 ] 野菜花き試験場佐久支場

[ 部 会 ] 病虫部会

1 背景・ねらい

オオタバコガは本県の夏秋作レタスにおいて最も被害の大きい難防除害虫である。本種を防除するための効果の高い薬剤を選定するとともに、レタスに対する薬害の有無を検討する。試験は平成 19 年および 21 年に実施し、平成 22 年に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

( 1 ) レタス、非結球レタスのオオタバコガ防除にディアナ SC の 5,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

ディアナ SC

[ 一般名及び成分含有量 ] スピネトラム 11.7%

[ 毒性 ] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[ 魚毒性 ] A 類相当（製剤として）

[ 対象作物に対する適用登録状況（平成 24 年 1 月 4 日現在 JPP ネット確認） ]

作物名	適用害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
レタス 非結球レタス	ハモグリバエ類 オオタバコガ ハスモンヨトウ	2500 ~ 5000 倍	100 ~ 300 L / 10a	収穫前日まで	2 回以内	散布

本試験は純粋に殺虫剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容が決定される以前に実施したため、散布回数は適用登録の回数を超えた。

3 利用上の留意点

( 1 ) 本剤はスピノシン系薬剤であり、害虫の神経系に作用し、チョウ目害虫に対して、速やかに食害抑制効果を示す。

( 2 ) ミツバチに対して影響を与えるので、ミツバチ等の巣箱およびその周辺にかからないようにする。

( 3 ) 本剤は蚕に対して影響があるので、桑葉にかからないように注意する。

( 4 ) 眼に対して刺激性があるので注意する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

( 1 ) ディアナ SC のオオタバコガに対する試験を佐久支場内ほ場で実施した。平成 19 年試験は甚発生条件下の試験であった。本剤の 5,000 倍液は、対照薬剤のハクサップ水和剤 1,000 倍液と比較して同等の防除効果であり、無処理と比較して高い効果が認められた。薬害および汚れは認められなかった（表 1）。

寄生幼虫数は3反復の合計値。それ以外の値は3反復の平均値

表1 オオタバコガに対するディアナSCの防除効果（平成19年、野菜花き試験場佐久支場）

供試薬剤	希釈 倍数	調査株数	被害株率 (%)	被害度	防除価	寄生幼虫数			薬害	汚れ
						若	中	老		
ディアナSC	5,000	20.0	0	0	100	0	0	0	なし	なし
ハクサップ水和剤	1,000	20.0	8.3	7.6	91.4	0	1	2	なし	あり <sup>a)</sup>
無処理		20.0	91.7	90.5		13	47	21		

a) 白色粉状の汚れを生じたが実用上問題なし

試験場所：野菜花き試験場佐久支場 場内ほ場 品種：「サウザー」 定植：8月17日

区制・面積：1区8.1m<sup>2</sup> 72株/区 3連制 対象害虫の発生状況：甚発生

処理方法：8月31日、9月7日および13日の3回、所定濃度の薬液（展着剤無加用）を10a当たり300Lの割合で散布した。

調査方法：最終散布8日後の9月21日（収穫始期）、各区の20株について、オオタバコガ幼虫による被害の有無を程度別に調査した。

また生育ステ - ジ別に寄生する幼虫個体数を調査した。薬害は肉眼観察によった。

被害程度別基準

無：被害が認められない。少：外葉に食害痕が認められる。中：結球葉にわずかな食害痕が認められる。

大：結球内部に食害痕が認められる。

被害度 = ((小 × 1 + 中 × 2 + 大 × 3) / (調査株数 × 3)) × 100

防除価 = 100 - (処理区被害度 / 無処理区被害度) × 100

- (2) 平成21年試験は少発生条件下の試験であった。本剤の5,000倍液は、対照薬剤のハクサップ水和剤1,000倍液と比較して同等の防除効果であり、無処理と比較して高い効果が認められた。薬害および汚れは認められなかった（表2）。

表2 オオタバコガに対するディアナSCの防除効果（平成21年、野菜花き試験場佐久支場）

供試薬剤	希釈 倍数	調査株数	被害株率 (%)	被害度	防除価	寄生幼虫数			薬害	汚れ
						若	中	老		
ディアナSC	5,000	30.0	0	0	100	0	0	0	なし	なし
ハクサップ水和剤	1,000	30.0	1.1	1.1	96.8	1	0	0	なし	なし
無処理		30.0	43.3	34.8		27	10	0		

寄生幼虫数は3反復の合計値。それ以外の値は3反復の平均値

試験場所：野菜花き試験場佐久支場 場内ほ場 品種：「ラプトル」 定植：8月20日

区制・面積：1区8.1m<sup>2</sup> 72株/区 3連制 対象害虫の発生状況：少発生

処理方法：9月3日、10日および18日の3回、所定濃度の薬液（展着剤無加用）を10a当たり300Lの割合で散布した。

調査方法：最終散布10日後の9月28日（収穫始期）、各区の30株について、オオタバコガ幼虫による被害の有無を表1の基準に従い程度別に調査した。また生育ステ - ジ別に寄生する幼虫個体数を調査した。薬害は肉眼観察によった。

## 6 特記事項

[ 公開 ] 制限なし。

[ 課題名、研究期間、予算区分 ]

東信地域の作物に対する病害虫防除試験（佐久支場）、平成19、21年度（2007、2009年度）、県単素材開発